

2016年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	総合政策学部	身分	教授
氏名	伊賀上 菜穂		
NAME	IGAUE Naho		

1. 研究課題

（和文）現代ロシアにおける宗教活動の展開に関する実態調査：ロシア正教古儀式派を中心に

（英文）Survey on the religious situation in present-day Russia focusing on Old Believers

2. 研究期間

1 年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）

本研究の目的は、プーチン長期政権下のロシアにおける宗教活動の展開とその特徴を、ロシア正教古儀式派の動向を中心に分析することにあつた。古儀式派とは、17世紀の教会分裂によって生じた宗派で、ロシア正教主流派とは一定の距離を置くマイノリティ集団である。報告者は2000年代に、南シベリアのブリヤート共和国および極東のハバロフスク地方における古儀式派の動向を継続的に観察してきた。今回もこれらの地域で調査を行うことで、2010年以降の状況および最新の動向を確認した。

まずは夏期に、ロシア連邦ブリヤート共和国ウラン・ウデ市および南部農村地域においてのフィールドワークを実施した。その結果、この地域で最も有力であるノヴォジブコフ派が2010年代に入っても順調に発展し、司祭育成や教会建設も比較的順調に進んでいること、またその背景には現地教団の中心人物である府主教が現地および教団中央との間で安定した関係を構築していることを確認した。また当地では古儀式派教徒に関する観光が活発化しているが、対象となる村では現地住民と観光業とのかい離も観察された。

3月にはロシア連邦ハバロフスク市を訪問し、古儀式派の最大集団であるベロクリニーツァ派のロシア極東での展開について調査した。この地域の古儀式派教徒は内部分裂の傾向が著しい。インタビュー調査の結果、この地域の同派信仰者の中には自覚的な信仰選択を経た者が多く、それが先鋭的な信仰心と組織を維持することの難しさに結びついていることを確認した。

（英文）

In this project we surveyed the current situation of Old Believers in the Transbaikal region for the purpose of analyzing the religious situation of Russia under Vladimir Putin. We established some factors driving the steady development of the *Novozybkovskaya* Hierarchy in the Transbaikal region in the 2010s, by comparing with the situation of *Belokrinitskaya* Hierarchy there and in the Far East.